

出前教室の実施にあたって

出前教室実施期間 2020（令和2）年度～2022（令和4）年度夏頃まで

対象年齢 小学校低学年以上 *年齢に合わせた授業内容の調整が可能です。

実施場所 例えば、……・教室・図工室・体育館など
作業ができるスペースが確保できる場所であればどこでも可能です。

主催者が準備するもの

- ・指導用の教材資料（動画、配布資料）*
- ・素材（チョマ・からむし）*
- ・編み機（編み用の治具）*

*すべて参加人数分ご用意します。

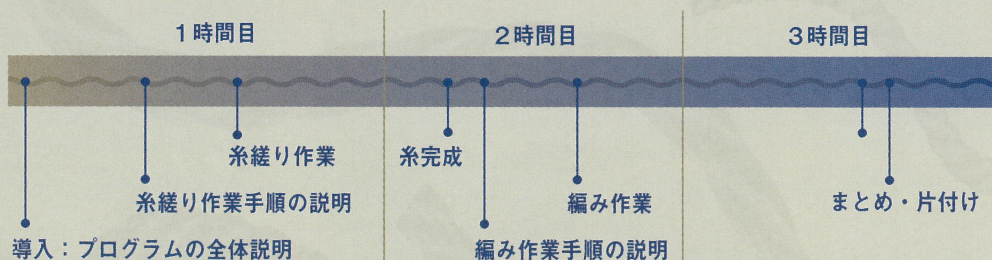
ご準備いただくもの

- ・ハサミ*
- ・雑巾*
- ・水（筆洗バケツなど）*

*参加者ひとり1つあると望ましいです。

インターネットを用いたりリモート実施をご検討の場合は、下記担当者と打ち合わせをし、実施に向けて調整を行います。
まずは、お気軽にお問い合わせください。

当日のタイムスケジュール例*（3時間で実施の場合）



*詳細は別紙の指導案をご参照ください。

**出前教室は2時間から実施できます。複数日で計4時間の実施なども可能です。

4時間目(オプション)
制作した網を版にして
オリジナルトートをつくる



トートバックは主催者が準備します。
時間が確保できる場合はオススメです。

実施までのタイムスケジュール

- ①お問い合わせ
青森県県民生活文化課が、ご希望やご相談をうかがいます。
- ②各種調整
スケジュール等調整後、東京藝術大学を交えた3者による実施に向けた具体的な打ち合わせを行います。
- ③物品等の準備
実施日に合わせて必要物品等を郵送・データのお渡しします。
- ④実施
開催規模に準じて、学校教員・青森県スタッフ・芸大講師を配し、円滑に取り組めるよう計画します。
- ⑤ふりかえり
ふりかえり及び今後の事務連絡について確認します。本プログラムで制作した網はご提供いただき、2022年に青森県立美術館での展覧会で作品を展示します。

お問い合わせ先

青森県環境生活部 県民生活文化課 文化・NPO活動支援グループ

TEL: 017-734-9207 (直) | FAX: 017-734-8046 | E-mail: seikatsu@pref.aomori.lg.jp

あおり JOMON GYOMO プロジェクト facebook: <https://www.facebook.com/aomorijomongyomo>



facebook



YouTube

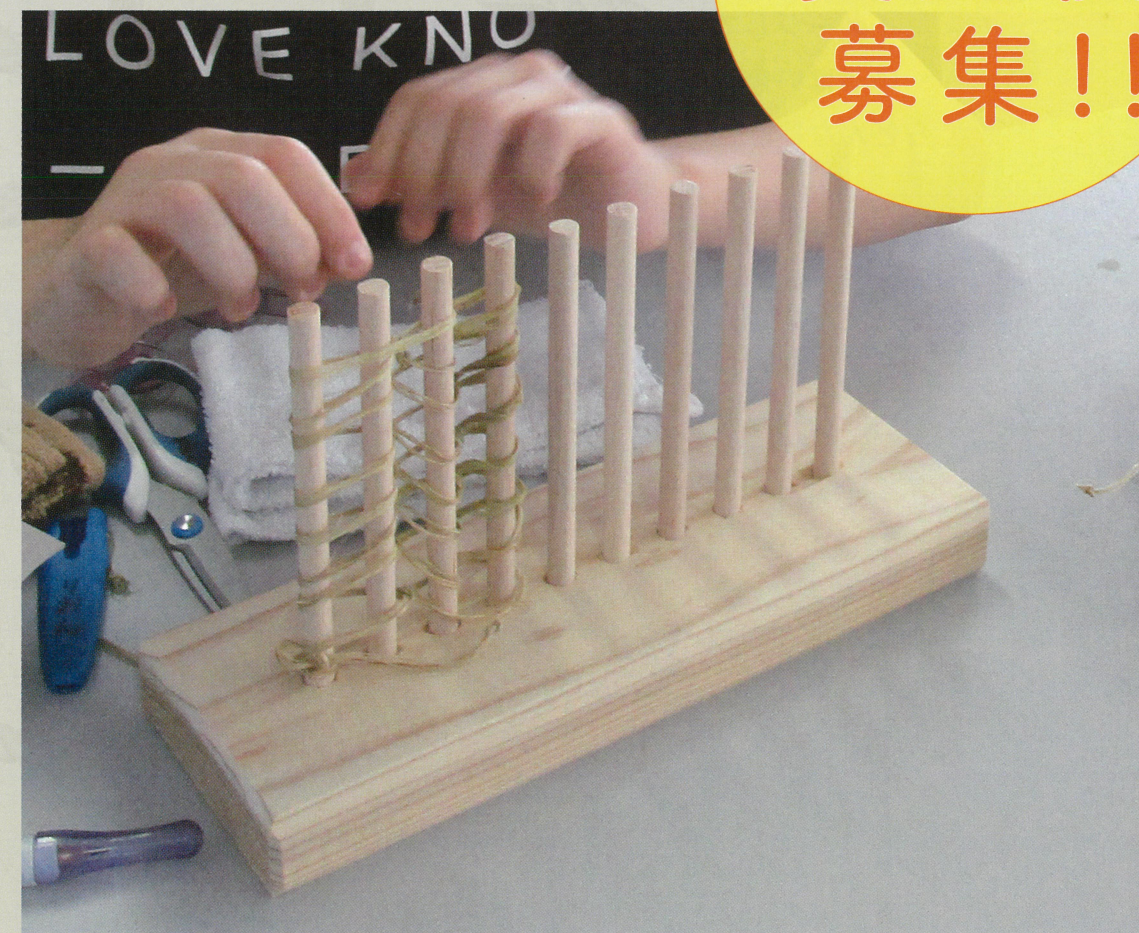
あおり JOMON GYOMO プロジェクト

青森県環境生活部県民生活文化課

東京藝術大学美術学部美術教育研究室・工芸科染織研究室

出前教室
実施校
募集!!

縄文をテーマにした芸術体験



グローバル化や人工知能などの技術革新が急速に進み、予測困難なこれからの時代。子どもたちには自ら課題を見つけ、自ら学び、考え、判断して行動し、よりよい社会や人生を切り拓いていく力が求められています。また、新学習指導要領においても、未知の状況に対応できる「思考力・判断力・表現力」、実社会や生活で生きて働く「知識及び技能」、学んだことを社会や人生で生かそうとする「学びに向かう力、人間性」という3つの資質・能力を一体的に育成することが記載されています。

一方で未来に向かっていく時になぜ「縄文」なのでしょう。厳しい自然環境の中、豊かに生涯を生き抜いてきた縄文人の創意工夫に満ちた生活文化の中には、答えのない未来を切り拓いていくために必要な力が詰まっています。

この縄文と美術を通した青森県独自の主体的で対話的な深い学びとなる本「JOMON GYOMO (縄文漁網) プロジェクト」によって、「自分で問いを立て、合意を導き出す力」や「生活・社会と豊かに関われる資質・能力を養う造形的な力」、そして「地域に対する誇りと愛着を持つ心」を育成していきます。

本プロジェクトでは出前教室の実施校を募集しています。
参加無料。オンラインによるリモート授業も可能です。
東京藝術大学よりプログラム講師を派遣しています。



あおり JOMON GYOMO (縄文漁網) プロジェクト概要

縄文時代に活用された素材の中にとっても優秀で現代でも使われている物に「繊維」があります。「繊維」は衣服、縄、等様々な生活道具に姿を変えて活躍しました。木の皮や草の繊維はそのままでは長さや強度を獲得できません。そこで人々は複数本の繊維をまとめて糸にする技、「糸より」という技術を編み出しました。これにより長くて強い繊維の束を獲得します。この技術は現代でも使われており、大きな橋などをつなげている鋼鉄の太いワイヤーも同じ技法で作られています。さて、縄文時代の人々はこの繊維をさらに織るなどして衣服を作るなど活用の方法をより発展させていきました。こうして多くの繊維からできた生活用具が生み出されることとなります。残念なことに繊維は朽ちやすいため、現代まで形を残す物は極めて少ないのです。現存する縄文時代の繊維に関する少ない情報から美術の想像力を使い、壮大なプロジェクトを構想してみました。

イメージしてみましょう。縄文時代、大自然の中で想像力を働かせ、何をどのようにしたら生活が豊かになるかを考え、工夫を凝らし様々な物を作ってきた人々の事を。

いっぱい魚が捕れる網を皆で作ったら、みんながお腹いっぱい幸せになるのではないかと、そんな夢を見た縄文時代の人々が居たかもしれません。もしも私たちが縄文人だったらどんな夢を抱くだろう。そうして始まったとてつもなく大きなプロジェクトの一端が、この出前教室です。

学校で行う概要

今後の展開

事前に打ち合わせを行います。

現地では青森県スタッフが、内容に関しては東京藝術大学がオンラインで打ち合わせを行います。

教員向けに事前の体験指導が可能です。

「チョマ」(麻の一種)の繊維を使い二人一組で繊維を回転させてより糸を作ります。動画説明や資料による説明も充実しています。

皆で作った網を結合して大きな漁網に仕立て上げます。後に、青森の海(平内町茂浦)で地引網を行います。

網の一部でさらにワークショップを開催。植物の種を網に取り付けして飾ります。後に植栽イベントを行い、新たな植物を育てます。

プログラムスタート時に概要の説明動画を流します。東京藝術大学からのオンラインのサポートの他、現地スタッフによる指導サポートも行います。

各々が作ったより糸を繋げながら、編み機を使って網を編んでいきます。指導用動画を使い作り方を丁寧に伝えます。

青森県立美術館で、あおり JOMON GYOMO プロジェクトの展示会を開催し、皆で作った大きな網の作品を展示します。

